

認知行動療法研究誌創刊号：
表紙,目次,投稿規定,編集後記,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1231

武蔵野大学

認知行動療法研究誌

■ 巻頭言

中島聡美

■ 特別寄稿

認知行動療法研究所発足に寄せて

小西聖子

【特集 様々な分野における認知行動療法の近年の動向】

■ 特集にあたって

中島聡美

■ 産業心理臨床における認知行動療法の動向

－ 職場復帰支援の現状と課題をもとに

矢澤美香子

■ 社交不安症の認知行動療法の展開

城月健太郎

■ 総説

がん患者遺族における複雑性悲嘆の有病率、関連因子に関する予備的レビュー

大岡友子 他

学会便り／書評／活動報告／投稿規定／編集後記

武蔵野大学認知行動療法研究誌 創刊号

目次

巻頭言：武蔵野大学認知行動療法研究誌の創刊に寄せて	中島聡美	1
特別寄稿：認知行動療法研究所発足に寄せて	小西聖子	3
特集：様々な分野における認知行動療法の近年の動向		
特集にあたって	中島聡美	4
産業心理臨床における認知行動療法の動向 －職場復帰支援の現状と課題をもとに	矢澤美香子	5
社交不安症の認知行動療法の展開	城月健太郎	12
総説：がん患者遺族における複雑性悲嘆の有病率、関連因子に関する予備的レビュー	大岡友子, 小西聖子	19
学会便り：第35回 International Society for Traumatic Stress Studies 報告	今野理恵子	41
第9回世界行動療法認知療法会議	渡邊美紀子, 野田昇太, 佐々木洋平	43
書評：『社交不安症の基礎理解と認知行動療法』	大山みち子	45
活動報告		47
投稿規定		49
編集後記		52

2020 年度「武蔵野大学認知行動療法研究所」投稿規定

本誌は他誌に発表されていない原稿のみを掲載します。投稿者は、武蔵野大学認知行動療法研究所研究員、武蔵野大学認知行動療法研究所客員研究員、名誉教授、人間学専攻後期博士課程院生、本学非常勤講師に限ります。これらの者が筆頭著者または共著者に含まれている場合、投稿を受け付けます。他誌に投稿中、印刷中または掲載済みの論文と主要部分が重複した論文は受け付けません。この点に触れる恐れのある場合は、重複すると思われる論文のコピー 1 部を投稿論文とともにお送り下さい。ただし、研究報告書、学会発表ならびに抄録での発表は除外対象としません。

I 投稿論文・原稿の種類

	①原著	②資料	③総説	④症例報告	⑤実践報告
字数	10,000 字程度			8,000 字程度	
邦文抄録・キーワード	400 字以内・5 個以内			200 字以内・5 個以内	
英文抄録・キーワード	250 ワード以内・5 個以内				
倫理的配慮の記載	要			要	

II 提出に関する規定

1. ワードプロセッサ使用の場合、1 頁を文字数 1,200 (横 40 × 縦 30 で印字された A4 サイズの用紙) にして下さい。
2. 原稿には表題、氏名、所属とその住所を記載して下さい。I ①②③には、英文で表題、氏名、所属とその住所も記載して下さい。これらに加え、抄録、倫理的配慮は規定枚数に含みません。
3. 図・表・写真は各々につき 400 字として規定枚数に含みます。写真はカラーではなく白黒にし、鮮明なネガまたは鮮明にプリントアウトされたものをお送り下さい。または電子ファイルにて添付して下さい。なお、原稿、写真、ネガについては返却しませんのでご了承下さい。
4. 投稿の際は (本規定末尾参照) より「投稿者カード」をダウンロードし、ご記入の上、同封ください。
5. 「原著」は、武蔵野大学認知行動療法研究所 (以下研究所) の主旨にふさわしい主題について著者自身の研究によって得られた洞察に基づいて独自の考察をした論文とします。原則として研究の意義、方法、結果、考察を含みます。
6. 「総説」は、研究所の主旨にふさわしい主題について関連する学術論文、書籍等を網羅的に検討し、新しい知見を提示した論文とします。論文の収集並びに検討方法が恣意的ではなく体系的であること、その方法論が示されていること、先行する総説には見られない知見が含まれることが必要となります。

7. 「資料」は、研究所の主旨にふさわしい独自性の高い資料等とします。
8. 「症例報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる臨床例について報告して下さい。
9. 「実践報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる実践について報告して下さい。

Ⅲ 倫理・利益相反

1. 研究論文については、方法論の中に「倫理的手続き」という項目を設けて下さい。その項目の中に著者所属機関の倫理委員会の承認の有無、対象者の同意を得た方法などを明記して下さい。資料の二次的使用については著作権者の許諾、その他必要と思われる事項を記載して下さい。助成・寄付を受けての研究等については、その旨を記載して下さい。また症例記述については匿名性について最大限にご配慮下さい。症例報告については、対象者の同意書コピーの提出を求めています。疫学研究、医学的臨床研究、ゲノム研究については、該当する倫理指針を参照して下さい。
2. 「原著」「資料」「総説」「症例報告」「実践報告」「特集」の著者は、武蔵野大学で定める利益相反（COI）自己申告書を記入し、原稿とともに提出して下さい。

Ⅳ 共著者

共著者の投稿同意については、「共著者承諾書」に、必要事項を記載の上、共著者の自筆署名を付けて下さい。

Ⅴ 用語

外国の人名・地名は原語表記とし。薬品・試薬名は一般名の英語表記を用いて下さい。その他の学術用語、専門用語は、日本語表記を用い、必要な場合は初出箇所原語及び略語を（ ）で付記して下さい。再出箇所では略語表記も可能です。

Ⅵ 文献

1. 文献引用は必要最小限のもののみをあげて下さい。なお、文献引用欄は規定枚数に含みます。
2. 各文献は著者名のアルファベット順に番号を付し（同一著者の場合は、発表順）、本文中にその番号で引用し、本文中の引用は番号を上付きにして下さい。例）小西 3）によると
3. 欧文雑誌名の略称は Index Medicus に従い、（Am.J.Psychiatry のように省略のピリオドをつける）、邦文雑誌は公式の略称を用いて下さい。
4. 著者氏名は3名以下の場合全員、4名以上の場合3人目まで書き、後は et al.（または、ほか）として下さい。
5. 文献の書き方は、以下を参照して下さい。

書式	記載例
著者氏名：論文題名。 雑誌名、巻；起頁 - 終頁、 西暦年号。	中島聡美, 伊藤正哉, 村上典子ほか：災害による死別の遺族の悲嘆 に対する心理的介入．トラウマティック・ストレス, 10; 71-76, 2012.
	Shirotzuki, K., Uehara, S., Adachi, S., et al.: Internet- based cognitive behavior therapy for stress and anxiety among young Japanese adults: a preliminary study. Psych, 1; 353-363, 2019.
単行本 著者（編者, 監修者）名： 書名．発行所名, 発行地, 起頁 - 終頁, 西暦年号。 （翻訳も同じ書式）	小西聖子 編著：犯罪被害者のメンタルヘルス．誠信書房, 東京, 2008.
	American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: DSM-5 -5th ed.. American Psychiatric Association, Arlington, 2013. (染谷俊幸, 神庭重 信, 尾崎紀夫ほか訳：DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル．医 学書院, 東京, 2014.)
単行本の中の論文 著者氏名：論文題名。 著者（編者, 監修者）名： 書名．発行所名, 発行地, 起頁 - 終頁, 西暦年号。	中島聡美, 白井明美, 小西聖子：災害による喪失と死別への心理的 ケア・治療．加藤寛ほか編：災害時のメンタルヘルス．医学書院, 東京, pp 113-120, 2016.
	Cahil, S.P., Rothbaum, B.O., Resick, P.A., et al.; Cognitive- behavioral therapy for adults. In Foa, E.B., Keane, T.M., Friedman, M.J. et al., eds.: Effective treatments for PTSD: practice guidelines from the International Society for Traumatic Stress Studies. Guilford Press, New York, 139-222, 2009.

Ⅶ その他

1. 原稿の採否は編集委員会で査読の上決定します。査読は投稿者の氏名および所属を伏せて行います。また、編集方針により加筆削除等を依頼することがあります。
2. 著者校正は原則として一度のみ行います。掲載された論文には、掲載誌1部と、別刷10部を進呈します。
3. 原稿1部ならびに原稿を保存した電子ファイルを武蔵野大学認知行動療法研究にメールでお送り下さい。なお必ずお手元にコピーを保存して下さい。（メールアドレス：cbtinst@musasino-u.ac.jp）
4. 投稿規定は改訂されることがあります。最新の投稿規定もしくは改訂の情報の有無を、必ず研究所ホームページでご確認下さい。
5. 研究成果が「武蔵野大学 認知行動療法研究所紀要」に掲載された場合、同研究成果は武蔵野大学学術機関リポジトリへも登録され、インターネット上に公開されます。そのため、投稿にあたっては、武蔵野大学学術機関リポジトリ規定に基づき、著作権処理を完了しておいてください。

編集後記

編集委員

浅野敬子、泉明宏、大山みち子、小西啓史、小西聖子、城月健太郎、辻恵介、中島聡美、藤森和美、矢澤美香子（編集事務：今野理恵子）（五十音順）

令和元年度という記念すべき年度に武蔵野大学認知行動療法研究誌を創刊できることになり感無量です。非常に短い時間の中で、特集記事を執筆して下さった城月先生、矢澤先生をはじめご協力いただいた皆様に心から御礼申し上げます。公認心理師という国家資格が生まれ、心理専門職には今までより“治療”スキルが求められるようになるでしょう。認知行動療法は心理療法の中でも“治療”としてのエビデンスの高いツールです。今後ますます日本の心理臨床、精神医療の分野で発展が期待されていると思います。武蔵野大学認知行動療法研究誌が、大学の紀要を超えて、認知行動療法およびより良い心理療法を模索する専門家にとって、役立つものになるように、次年度以降頑張っていきます。(S.N.)

編集作業中の現在、新型肺炎流行のニュースが連日報道されています。日本中のマスク売り場から、マスクが消えて数週間が経つ中、豪華客船内に留められている人々のストレスや不安もいかばかりかと案じております。心のケアについて進言される専門家の方も少しずつ増えてきておりますが、今回に限らずとかく後回しにされがちな心のケアの重要性を「認知行動療法」を通してお伝えしていきたいと思っております。(R.K)

武蔵野大学認知行動療法研究誌 創刊号

2020年3月 印刷・発行

発行 武蔵野大学認知行動療法研究所

住所 東京都江東区有明 3-3-3

印刷 株式会社ワコー

Journal of Musashino University of Cognitive Behavioral Therapy and Research Volume 1 Mar 2020

■ Preface

Satomi Nakajima

■ Column

Message for Establishment of Cognitive Behavioral Therapy and Research Institute

Takako Konishi

【Special feature : Trend in cognitive behavioral therapies in a variety of fields.】

■ The Purpose of This Special Feature

Satomi Nakajima

■ A Consideration of Trends in Cognitive-Behavioral Therapy in Clinical Psychology for Occupational Mental Health: The Current Situation and Issues of Support for Returning to Work

Mikako Yazawa

■ Deployment of Cognitive Behavioral Therapy for Social Anxiety

Kentaro Shiotsuki

■ Review

A Preliminary Review of the Prevalence of Complicated Grief and Related Factors among Bereaved Families of Cancer patients

Tomoko Ohoka, et al.

Conference Report/Book Review/ Research Progress Report/ Submission Guideline/ Editorial Note